

2013
Number
082

TAMA UNIVERSITY

Rapport

Contents

経営情報学部カリキュラム01 ビジネスICT	P.02
ゼミの紹介 中庭ゼミ・志賀ゼミ・インターゼミ	P.03
ゼミ活動報告 浜田 正幸 ゼミ／飯田 健雄 ゼミ	P.04
キャリアサポート 多摩大学 フットサル部	P.05
平成 25 年度後援会定期総会報告 経営情報学部／グローバルスタディーズ学部	P.06
平成 24 年度学校法人田村学園概要 News	P.07
写真で見る 多摩大学の歴史⑤	P.08



浜田ゼミ・片桐ゼミ・経営情報学部
国際交流委員会 合同企画
留学生歓迎パーティ

2013年4月24日多摩キャンパス学食にて開催

上：参加者全員で記念撮影

左下：準備風景

右下：留学生との交流

01 ビジネス ICT

経営情報学部では分野別に「ビジネス ICT」「グローバルビジネス」「地域ビジネス」の3つの履修モデルを用意しています。



文系学生だと思っている人こそ注目すべき分野がある。それが ICT だ。

ICT という言葉を聞いただけで、「あ、理系の人の話だ」「文系の自分には関係ない」と思っている人は、もう少しだけ先を読み進めてください。学生に限らず、社会人でもそう思っている人がたくさんいます。ただし、それは大変もったいないことです。これから社会が必要としている人材(つまり仕事としての需要がある分野)の一つが ICT という分野ということを知っていきま

ICT とは情報通信技術のことですが、もっと簡単に言えば、データを活用する技術と考えてしまうとわかりやすい。実際のデータを活用したビジネスを一つご紹介します。

WEB で HP を見ていると、なぜか自分の興味がある分野のバナー広告が表示されていることはありませんか? よく考えるとこれはすごいことです。どうしてこんなことが可能になったのでしょうか。それは、「その人がそれまでに見てきたサイトがどんなサイトだったか」をデータとして記録し、それを分析することで、「この人は、こんなモノに興味を持つだろう」ということを瞬時に判断し、WEB 画面に表示できる仕組みが開発されたからです。

ここまで読むと「あ、やっぱり開発なんて理系の話じゃないか」と思われるかも知れませんが、「それは違う」というのがこの話のポイントです。

技術というのは「それをどう使うか」を考えなければ、人に使われることはありません。電子レンジだって、火を使わずにモノを温められるという“使い方”が示されるから、みんなが使ったわけです。

では、ICT (情報通信技術) の“使い方の提案”つまりアイデア出しの現状はどうなっているのでしょうか。この分野、どんどん新しい技術が開発されていますが、まだまだ使い道が提案し切れていない技術が大量にあります。ここに文系の皆さんのチャンスがあります。

情報系の会社は、もちろん開発できる人も必要ですが、それをどう活用するか、それをどう顧客に伝えるかといった人も必要なんです。そして、そういう人材が足りない。それが、社会がそういう人材を必要としている理由です。

さて、結論です。文系の大学ではあるものの、情報系 (ICT 系) が強い多摩大学経営情報学部ですから、ぜひ ICT 系の講義やゼミで学んでみてください。もちろん、自分が勉強したいモノが他にあってかまいません。ICT についても知っておこうというだけで、自分の可能性が広がります。

道具として (アイデアを考える素として) ICT を学ぶということは、実は、かなり楽しい分野です。何か公式を覚えさせられたり、計算をさせられたりという話ではなく、道具としての技術はどう使われ、どういう新用途があるかというのはまさに企画やマーケティングの分野です。

ぜひ、こんなに将来成長が望める分野があるということは、覚えていて欲しいと思っています。



豊田 裕貴 教授
Yuki Toyoda

プロフィール

法政大学経営学部卒、法政大学大学院にて経営学修士号 (MBA)、経営学博士号 (DBM) を取得。博士 (経営学)。その間、ビデオリサーチ嘱託研究員、東京ガス都市生活研究所専門研究員などを経て 2004 年 4 月より多摩大学助教授。専門は、マーケティング。特に、リサーチベースのマーケティングから、ブランド・エクイティ、消費者行動を研究対象としている。



ディスカッションテーブルで企画を練るビジネス ICT クラブの学生たち

〈2 年次からのビジネス ICT 履修モデル〉

顧客視点と
マーケティング感覚を
身につけた
技術に強い ICT 人材

【問題解決学】

●科学 情報概論/数字力で語る/ビジネス数学基礎/PC 基礎/経営情報論/IT マネジメント/経営情報数学/経営科学/情報通信と社会/経営と意思決定/情報ネットワーク概論/Web サービス開発/Web デザイン/Web プログラミング/リサーチ入門/マーケティングマネジメント論/マーケティングデータ分析/マーケティングリサーチ/マーケティングモデリング/マーケティング戦略/マーケティングとイノベーション/情報サービス/コンピュータ概論/統計/統計学/情報工学概論/コンピュータサイエンス/情報セキュリティ/コンピュータネットワーク活用/データ解析

●方法 〈言語系〉プログラミング言語入門/プログラミング言語/Web プログラミング/データベース理論: マルチメディア実践/システムデザイン/システム分析概論/情報探索法/社会調査士実習 I・II

●理論 ビジネス ICT 入門

【キャリア/志】

●キャリア系 情報と職業

【産業社会論】

●産業社会 消費心理/認知心理

情報系ゼミ/マーケティング系ゼミ

中庭 光彦
ゼミ

コミュニティをデザインし、まちを元気にする

中庭ゼミは多摩大のまちづくり研究室です。目指すのは、ゼミ生がまちづくりの先頭に立って分析・企画・提案する能力を身につけることにあります。そのために、学生には現場に立ってもらいつつ「理論と企画で社会提案を行う」、つまり政策提案の訓練を行っています。

いま学生は二つのプロジェクトで活動しています。一つは JTB 等が主催する「大学対抗観光まちづくりコンテスト」への参戦です。今年のテーマは「富士河口湖地域の観光まちづくり」。既に学生は河口湖でのフィールドワークを始めており、夏は調査漬けになることでしょう。

もう一つは、「多摩企業のインタビュー調査」で、昨年は京王電化工業、北島牧場、岡直三郎商店の社長インタビューを行い、学生の分析を加え報告書を発行することができました。企業人の生き方について資料をつくることも地元への大事な貢献で、継続します。

現場に出て、他の大学生や社会人と話し、異なる地域・企業の課題を目の辺りにすると、明らかに学生の顔つきが変わってきます。挑戦するチャンスができるだけつくっていきたくて考えています。



プロフィール
中庭 光彦 (ナカニワ ミツヒコ)
経営情報学部 准教授
中央大学大学院総合政策研究科博士課程退学。主な著書に『新たなローカルガバナンスを求めて』(2013)、『オーラル・ヒストリー 多摩ニュータウン』(2010、共に中央大学出版部、共著)。専門は地域政策、水文化研究。

志賀 敏宏
ゼミ

「自分の人生を輝かせる」、
「まわりの人々に幸せを届ける」

志賀ゼミは、ゼミ生諸君が、時代との相性、思考力、行動力を高め、自分とまわりの人々を幸せにすることを目指します。

(1) 時代、イノベーション

日本は、30年前とは全く異なっています。大きな会社の工場・店舗・事務所に行き、毎日ほぼ同じ仕事をしようとしても、なかなか幸せにはなれません。時代は、イノベーション(創新)力を求めています。

これは、努力によって身につけられます。そのために、主に、現場—商品開発、店舗、工場、農園等、町並み等で、マーケティングや企画、創新の実際を人から学びます。もちろん、本からも学びます。

(2) 問題解決、コミュニケーション

何を解決すべきか、創新でいかに問題解決すべきか、難しい問いですが、練習を繰り返すことで身につけられます。組織・社会での問題解決のために、コミュニケーション力も鍛えます。

(3) 実践

実践で学びを仕上げます。企業のマーケティングのお手伝い、新製品企画など、「ごっこ」でない活動に挑みます。

当然、ゼミ生諸君の就職力、社会人も高まります。やろう!と思ったことには、努力を惜しまないメンバーを集めます。



プロフィール
志賀 敏宏 (シガトシヒロ)
経営情報学部 教授
東京大学教養学部 基礎科学科卒業(液晶物性専攻)。
日立製作所 家電研究所研究員、三菱総合研究所 経営構造研究室長、青森公立大学 経営経済学部教授を経て、平成 25 年 4 月より現職。民間企業での勤務経験を活かし、ゼミ生の「生きる力」教育を重視。

インター
ゼミ

インターゼミ (社会工学研究会)

寺島実郎学長を主宰として、2009 年から開始したゼミです。横は 2 つの学部(経営情報学部・グローバルスタディーズ学部)、縦は学部 1 年生から社会人大学院生が参画します。歴史ある九段の地にあるサテライトにて、現代社会の抱える問題について、塾形式で文献研究とフィールドワークにより体系的な総合設計力を身につけることを狙いとしています。ゼミ生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決にいたるプロセスの中で、寺島実郎学長以下 12 名の教員や社会で活躍する学外の賢人により付加価値を高め、創造的問題解決策を志向・策定します。

2013 年度は、5 つのテーマで共同研究を行っています。過去 4 年間の研究の蓄積の上に立ち、広がりや深まりを見せ、それぞれのテーマが重なり合い関係しながら、1 年間かけて「問題解決型の共同研究」に立ち向かいます。

〈2013 年度の研究テーマ〉

- ・ アジアダイナミズム「日本とユーラシアの交流—飛鳥寺を手掛かりに—」
- ・ 地域「一医療ツーリズム—」
- ・ 環境・エネルギー「一多摩大学スマートユニバーシティ構想—」
- ・ サービス・エンターテインメント「一顧客満足度と従業員満足度—」
- ・ 多摩学『「三多摩士」はなぜ生まれたか?~自由民権運動にみる多摩の DNA ~』



プロフィール
久恒 啓一 (ヒサツネ ケイチ)
経営情報学部 学部長・教授
九州大学法学部卒業。昭和 48 年日本航空株式会社入社、ロンドン空港支店、客室本部勤務担当等を経て、本社広報課長、サービス委員会事務局次長を歴任。ビジネスマン時代から「知的生産の技術」研究会(現在は NPO 法人)に所属し著作活動も展開。日本航空を早期退職し、平成 9 年 4 月新設の宮城大学教授に就任。学生とともに成長する教育者、地域とともに歩む研究者、県立大学教授としての社会貢献という 3 つのテーマで活発に活動。著作や雑誌への寄稿や講演など全国区で活躍する一方、宮城県では多数の審議会・委員会の委員などをつとめた。平成 20 年 4 月より多摩大学経営情報学部教授、平成 24 年 4 月より経営情報学部学部長に就任。

浜田 正幸
ゼミ

イベントの開催で、人と人のつながりづくり

浜田正幸ゼミは40名が所属し会社形式で活動するゼミです。組織形態は浜田先生を会長に、ゼミのまとめ役である社長、社長を補佐する社長室、その下に人事部、企画部、経理部、IT部、広報部、総務部があり、ゼミ生はいずれかに所属しています。ゼミ生が自主的に運営し、月1回のペースでイベントを開催、定期的に部会や部長会を行い情報交換するなど授業時間外での活動も活発です。人とのかつなかりを大切にすることは浜田ゼミの理念の一つ。イベントには外部ゼミ生や留学生に参加を呼びかけ、学内交流を図っています。4月24日(水)には多摩キャンパス学食で、学生課の協力を得て、浜田ゼミ・片桐ゼミ・国際交流委員会の合同企画で留学生歓迎パーティーを開催しました。学生主体の開催は初めての試みで、ゼミ生たちは事前に留学生や外部ゼミ生に直接声掛けをして募り、当日は留学生、教職員、多摩大生、合わせて約50名もの参加がありました。

今年度の方針は昨年からはじめた留学生との交流をさらに深め、外部ゼミとの交流の増加と強化、内容を深めていくこと。ポスターやプロジェクター、声掛けなどでイベントへの参加を呼びかけ、人と人をつなげる架け橋の役を担っていきます。



留学生歓迎パーティにて



浜田ゼミ生。写真左から新津理香さん(3年・広報部)、益子明香里さん(2年・広報部)、川邊綾華さん(3年・企画部)、泉田知之さん(3年・社長室)

飯田 健雄 ゼミ

教師の覚悟

大川小学校の悲劇

経営情報学部 教授 飯田 健雄



大川小学校追悼式



飯田教授とゼミ生(旧大川小にて)

東日本大震災から2年目にあたる3月11日に、飯田ゼミは、宮城県石巻市の旧大川小学校を訪問した。この地を選んだのは大きな理由があった。市側と遺族側が二度の検証委員会を開いても、結局、結論が出ず、遺族側に大きな不満の残る結果となったことである。私は、この事実に深い関心を持った。学生たちにも、大川小学校跡地を訪問することを告げたが、復興状況を視察するぐらいの反応しか得られなかった。

仙台駅からバスで約1時間半の大川小学校は悲劇の極小スポットという感じで、実際にその場に行かねば見過ごしてしまう場所であった。テレビでは絶対に放映されない、この瓦礫と化した建物の反対側の風景は、北上川がとうとうと流れる実へのどかな風景だった。きっと、震災前はトトロの里に劣らぬ緑豊かな自然の田園地帯だったことだろう。

私の問題はただ一点であった。それは、校舎から約50メートル近く離れた「裏山」を児童が登れたかにつける。ここが運命の分かれ道だったからだ。あの強い余震続く、過酷な状況の中で、無事に安全な高台まで登れたかどうかということである。これを、実際の裏山の麓にたつて、ゼミ生、全員と議論してみた。このきつい急勾配では無理だろうという意見が学生の大勢を占めた。

事態が動く気配もあった。「裏山」で遊び、土地勘のある数名の小学生が「裏山に逃げよう」と教員に強く進言したことである。これは直ちに却下されてしまった。悲劇はたった一つの原因では起こらない。教員たちは、次の点で、避難行動を縛られていたと

思う。(1)リーダーたる校長が不在(2)巨大地震に対するマニュアル不在(3)全員が安全に登れない急峻な裏山(4)校舎自体が海から4キロも離れているという安心感である。これが、津波が来る1分前まで、約50分も校庭に児童を待機させた結果になった。これは、多くのマス・メディアから指摘されてきた事実である。しかし、私は、もう一つ、大川小学校を襲った悲劇の重要な要素があると思う。それは、「教師の覚悟」である。後知恵になるが「裏山」に上るべきだったのだ。登攀中に泣き叫ぶ児童に罵りの言葉を、浴びせてもいい、足を滑らせて怪我をさせてもいい。これが、危機的状況の中で、マニュアル不在での、説明責任を追及されても動じない「教師の覚悟」ではなかったかと思っている。

遺族の思いは完全に一つの思いに収束する。大けがをしてもよいから両親のもとに帰ってきてほしかった。しかし、愛しい「わが子」は決して帰ってこない、まるで宇宙の深淵に落とされた無限の苦悩であろう。これが市との深い溝を作っていると想像に難くない。大川小学校では、教員1人を残して、すべての教員が命を落とした。このような事を書くことは、亡くなられた教員の皆さんとそのご遺族に非常に酷なことであることは重々理解している。しかし、仮に、「教師の覚悟」という心情論理に動かされながら、2011年3月11日の午後3時頃に戻れるならば、教員の方たちが、悲劇を生んだ同じ行動をしていたとは到底思えない。大川小学校という悲劇の教訓は、一介の大学教員にも、「教師の覚悟」という点で、非常に重い課題を突き付けている。

キャリア支援講座「IYOKUBA ②～『感じる』ことを大切に～」開催

2013年5月28日(火)・29日(水)多摩キャンパスにて、3年生対象の第4回キャリア支援講座「IYOKUBA ②～『感じる』ことを大切に～」が開催されました。「IYOKUBA～自己表現力向上ワークショップ～」は、表現のプロであるミュージカル劇団「音楽座ミュージカル」がプロデュースする多摩大学オリジナルの自己表現力向上プログラムです。

はじめに、音楽座藤田氏より「内定がでない主な理由として、①『この会社で働くんだった！』という覚悟ができていない ②自分の思いが伝わらない(表現することができない)という2点があります。『表現する』ことは、自分が伝えたいことだけではなく、相手が求めていることを話すことが大切です」とのお話がありました。今回の講座では①積極的に動く②表現力を身に付けることを目標に、二人一組となり『言葉に頼らず相手の動きを察知→呼吸を合わせて動いてみる』というゲームを通じ、相手の求めていることを体感し、表現力を極めるためのワークショップとなりました。



「音楽座ミュージカル」劇団員の指導の下で



ワークショップを体感する

「第4回 学内合同企業説明会」が多摩キャンパスにて開催されました

2013年5月24日(金)多摩キャンパスにて、4年生を対象とした「第4回学内合同企業説明会」が開催されました。多摩大学からの採用に意欲の高い12社をお招きし、60名超の学生が参加しました。

13時からの「事前説明会」では、参加企業のご担当者様より自社のPRをしていただき、参加学生は14時からの「合同企業説明会」で訪問する企業を最終決定しました。このような事前説明会を設ける大学は少なく、毎回参加企業、学生の双方から好評を得ています。「合同企業説明会」では、ブース形式で40分間の説明会を4回実施。意欲的に参加した学生が多く、熱心に耳を傾けていました。

次回『第5回 学内合同企業説明会』は、7月26日(金)開催予定です。



学内合同企業説明会にスーツ姿で臨む学生たち

多摩大学フットサル部

多摩大学フットサル部 2013年度新入部員の紹介

①学年 ②サッカー・フットサル歴 ③今期の目標



石川 敬太

① 1年
② サッカー 9年
③ 元気であること。



伊藤 翼

① 1年
② フットサル 3年、サッカー 12年
③ スタメン奪取。日本一。



大戸 喜博

① 1年
② サッカー 9年、フットサル 2年
③ 日々のトレーニングを頑張る。



木村 祥孝

① 1年
② 12年
③ No.1



児島 勝美

① 1年
② 10年
③ スタメン。大会総なめ。



坂下 雄紀

① 1年
② 3年
③ 試合に出て活躍する。



澤邊 翔太

① 1年
② 6年
③ スタメン入り。



高森 翔太

① 1年
② サッカー 4年、フットサル 1年
③ ブラジル代表のフッキミに熱い選手になる。



照井 真人

① 1年
② サッカー 4年
③ 一試合でも多くの試合に出る。



長岡 葉月

① 1年
② サッカー 3年、フットサル 3年
③ 点を多くとってチームに貢献する。



西 純平

① 1年
② サッカー 12年
③ フットサルへの理解。



長谷川 太

① 1年
② サッカー 14年
③ 試合でチームに貢献する。



山野 純平

① 1年
② 0年
③ 試合に出ること。みんなの足を引っ張らないようになること。



渡邊 十夢

① 1年
② 0年
③ フットサルに慣れること。

マネジメントスタッフ



立石 紗亜弥

① 1年
③ 有言実行。

平成 25 年度 経営情報学部後援会定期総会並びに交流会 報告

6月1日(金)14時30分から多摩キャンパス101教室にて、「平成25年度経営情報学部後援会定期総会並びに交流会」が開催され、44名のご父母の方が参加されました(委任状の提出582名)。

○学内見学ツアー

定期総会開始前の14時からは、希望者を対象とした学内見学ツアーを行いました。教育サポート室、図書室、学生ラウンジ、カフェテリア、今年2月にリニューアルしたラーニングcommons(ゼミのミーティングや討論、自主勉強の場として学生が利用)などを職員がご案内しました。

○学部概況報告(久恒啓一経営情報学部長)

久恒学部長より、「多摩大の人材戦略と育成実績」と題し、経営情報学部の教育及び人材育成プログラム、就職状況、創立25周年記念事業などについて説明を行いました。

○定期総会

後援会会長代行の今井ひろみ様よりご挨拶をいただいた後、久恒学部長が議案「平成24年度事業報告及び決算報告」「平成25年度事業計画及び予算」について読み上げ、会員の皆様の同意を得て承認されました。事業計画では今年度も「後援会会員に向けた就職活動等を中心とした大学の取り組みの説明と教職員との情報共有の場の提供」として、平成25年10月6日(日)に「就職懇談会」、平成26年3月2日(日)に「経営情報学部セミナー」の開催を予定しています。さらに「学生の充実した学生生活のサポート」「卒業記念品」「学生のキャリア形成のサポート、就職活動支援」「大学の活動を会員の皆様へお知らせするための広報誌 Rapport 発行」「語学力向上」などを目的とした補助が計画されています。

大学総務課からは、平成24年度に実施した学内施設リニューアルなどの教育研究活性化設備整備事業、多摩キャンパス節電プロジェクト等について報告を行いました。

引き続き平成25年度経営情報学部後援会役員27名を選任し、新会長に就任された米倉裕之様よりご挨拶のことばをいただきました。

○交流会

定期総会終了後は、カフェテリアにてご父母と教職員が歓談し、家庭と教育の場の情報交換が和やかに行われました。



学内見学ツアー



久恒啓一学部長 新会長の米倉裕之様



定期総会



交流会の様子

グローバルスタディーズ学部 第5回後援会定期総会 報告

6月15日(土)14時から多摩大学湘南キャンパスEAST201教室にて、「グローバルスタディーズ学部 第5回後援会定期総会」が開催され、35名のご父母の方々の参加がありました(委任状の提出355名)。定期総会終了後には安田震一学部長による「学部概況報告」、外部講師を招いての「特別講演」、卒業生による「パネルディスカッション」、カフェテリアでの「懇親会」が行われました。

○定期総会

議長の秋元龍之輔様の進行で、平成24年度事業報告・決算報告・監査報告、平成25年度後援会役員25名の選出、平成25年度事業計画・予算について審議され、いずれも承認されました。新年度の支援事業として、①課外活動 ②キャリア ③国際交流 ④その他への補助、卒業記念品の贈呈などを計画。新年度の後援会会長は、御影雅良様にお引き受けいただくこととなりました。

○学部概況報告(安田震一グローバルスタディーズ学部長)

学生の健康管理、単位修得に関する注意事項、ペース配分の重要性、留学、2つの専門コース、今年度から導入される新たなアドバイザー制などについて説明、大学のサポートとともにご父母の皆様のご協力をお願いしました。

○特別講演「グローバル体験で拓くキャリア」:三浦俊章氏

(朝日新聞 GLOBE 編集長・元テレビ朝日「報道ステーション」コメンテーター)

三浦氏の豊富な海外生活の体験談や GLOBE 編集長としての立場から、「英語を取得するためには毎日勉強し続けること、日本や自分を知るためにも外国へ行ってほしい」と英語の必要性、海外体験の重要性を語りかけました。後半には質疑応答の時間も設けられ、会場との意見交換も活発に行われました。

○パネルディスカッション「SGSでのグローバル体験と社会人生活」

パネリスト:石森啓太さん(アイリスオーヤマ(株)・1期生)、鮎川礼さん(内外日東(株)・1期生)、矢部亮介さん(英会話教室 Gaba・2期生) コーディネーター:松林正一郎教授

3名の卒業生からは、在学時の海外留学や海外インターンシップでの体験談、社会人生活の様子、後輩たちへのメッセージなどが語られ、松林正一郎教授からは学部の就職状況などが報告されました。

○懇親会

カフェテリアで行われたご父母の皆様と教職員との懇親会は、リラックスした雰囲気の中で会話が弾み、家庭と大学、また会員同士の交流が深まる有意義なひとときとなりました。



定期総会 新会長の御影雅良様



安田震一学部長 三浦俊章氏



パネルディスカッション



懇親会の様子

平成 24 年度 学校法人田村学園概要

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。最新の田村学園概要は、以下のとおりです。

〔学校法人 田村学園 貸借対照表〕

貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日 (平成 24 年度)

(単位 百万円)

資産の部	前年度末	本年度末	増 減
科 目			
固定資産	21,907	22,042	135
有形固定資産	20,379	20,415	36
土地	11,992	11,992	0
建物	7,331	7,235	△96
その他	1,056	1,188	132
その他の固定資産	1,528	1,627	99
借地権	0	0	0
第2号基本金引当資産	1,300	1,400	100
その他	228	227	△1
流動資産	3,967	4,492	525
現金預金	3,028	3,098	70
その他	939	1,394	455
資産の部合計	25,874	26,534	660
負債の部			
科 目			
固定負債	344	346	2
長期借入金	2	2	0
退職給与引当金	342	344	2
長期未払金	0	0	0
流動負債	1,043	1,159	116
短期借入金	1	1	0
前受金	731	756	25
その他	311	402	91
負債の部合計	1,387	1,505	118
基本金の部			
科 目			
第1号基本金	28,775	28,755	△20
第2号基本金	1,300	1,400	100
第3号基本金	92	92	0
第4号基本金	397	397	0
基本金の部合計	30,564	30,644	80
消費収支差額の部			
科 目			
消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	△6,077	△5,615	462
消費収支差額の部合計	△6,077	△5,615	462
科 目			
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	25,874	26,534	660

(平成 24 年度)

・学生・生徒等 (人)	田村学園全体	4,777
	多摩大学 学部	
	経営情報学部	1,469
	グローバルスタディーズ学部	591
	多摩大学 大学院	93
	高校 (2)・中学 (2)・幼稚園 (3)	2,624

・キャンパス面積 (㎡)	田村学園全体	115,650
	多摩大学	44,913
	その他	70,737

以上、平成 25 年 5 月 1 日 現在

〔平成 24 年度 学校法人 田村学園 計算書類 抜粋〕

〔資金収支〕

(資金収入)	(単位：百万円)
学生生徒等納付金収入	3,732
手数料収入	74
寄付金収入	53
補助金収入	1,234
資産運用収入	26
事業収入	145
雑収入	94
その他	△116
前年度繰越支払資金	3,028
合計	8,270

〔消費収支〕

(消費収入)	(単位：百万円)
学生生徒等納付金	3,732
手数料	74
寄付金	53
補助金	1,234
資産運用収入	20
事業収入	145
雑収入	94
帰属収入合計	5,352
基本金組入額	△100
合計	5,252

〔資金支出〕

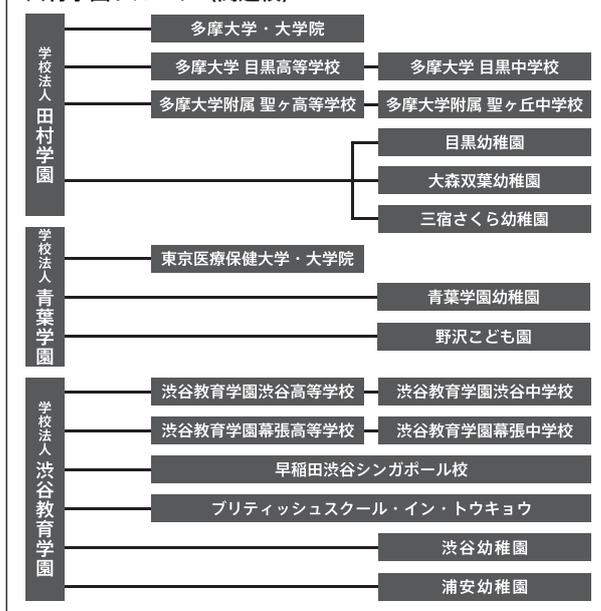
人件費支出	2,911
教育研究経費支出	902
管理経費支出	537
借入金等利息支出	0
その他	822
次年度繰越支払資金	3,098
合計	8,270

〔消費支出〕

人件費	2,914
教育研究経費	1,244
管理経費	566
その他	85
合計	4,809

当年度消費収入超過額 443

田村学園グループ (関連校)



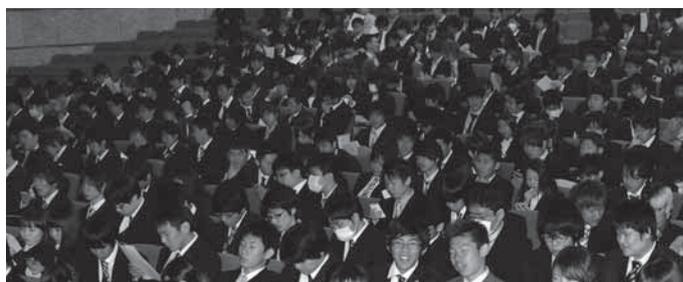
News

2013 年度 多摩大学入学式

4月4日(木)10時10分からパルテノン多摩にて、多摩大学入学式が開催されました。今年度の入学者数は経営情報学部、グローバルスタディーズ学部合わせて486名。寺島実郎学長は新入生に向けて、「アジアのダイナミズムに気づこう、大学が所在する多摩地域の知識を深めよう、ローカリティを深めることでグローバルティが見えてくる、社会人としての基礎を鍛え身につけ、充実した4年間を過ごしてほしい」、田村嘉浩常務理事は「何事についても自分の頭で考えることを習慣づけ、考え抜く4年間に。志を社会で活かせる人間になってほしい」と挨拶。来賓の阿部裕行多摩市長、多摩信用金庫前理事長の佐藤浩二様よりご祝辞をいただき、新入生代表として経営情報学部の栗生朋奈さんとグローバルスタディーズ学部の永井深一朗さんがこれから過ごす大学生生活の抱負を述べました。



寺島実郎学長



1995年9月、多摩大学は第3代の学長に英国生まれのグレゴリー・クラーク氏を迎えました。クラーク学長は、多摩大学の家族的な雰囲気の中で、先生と学生が気軽に交流する光景や学生一人一人に対する教職員の気配りを「スモール・イズ・ビューティフル」と表現しました。また、社会における多摩大学の役割を“ニッチ”すなわち、「関心の分野を絞った独自性をもつ大学」ということばで表現しました。

グレゴリー・クラーク名誉学長時代

英語の暗号解読授業

グレゴリー・クラーク第3代学長はオーストラリア外務省入省後、外交官として中国・旧ソ連での勤務経験や「ジ・オーストラリアン」紙東京支局長などの経歴があり、日本語・中国語・ロシア語に堪能なことから、語学教育に関する方針は明快でした。

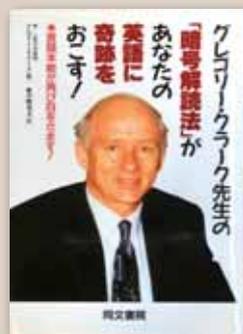
「外国語の学習は、はっきりした動機のある人が、強い意志を持って取組まないと成果は上がらない」と考えるクラーク学長は、受験英語の弊害を説き、多摩大学の入試において「英語」を選択科目とし、大学の授業の中で英語または中国語を集中的、効果的に学ばせるという方向性を打ち出しました。教科書や文法優先ではなく、フィーリングでまず聞く能力をつけ、それから会話へと進んでいくという発想です。

1996年度より、多摩大学の英語クラスでは学長自身が考案し、実践指導する「ディープリスニングによる暗号解読法」を導入しました。この英語学習法は、文字で書かれた教材を見て訳読したり、単語や表現を暗記するのではなく、日常生活によく用いられる自然な英文を何度も聞いて書き取ることで、潜在意識に深く英語の音や意味を刻みつけていく教育メソッドでした。

授業では、学長自らが録音したテープが学生に配られ、次の授業までにそこで何が語られているかを書き出してくる課題が出されます。当初、教員から配られる語彙リスト以外、何も見ないで英文を書き取っていくという作業に慣れていなかった学生も、課題を繰り返すうちに次第に英文に慣れていき、そこに使われている単語や表現を無理なく覚えながらリスニング力を向上していくことができました。

聞こえてくる英文の中のわからない単語なども、課題をする過程で自分から辞書を引く、という能動的な姿勢が身につくにつれて、テキストを訳読するだけでは表面的な暗記で終わってしまいがちな英語学習を「忘れることのない実践的な」ものにできたと評価されました。

(大学教育改革への挑戦 多摩大学教育 20年史より)



クラーク学長の著書(右)と学生に配布された学長自ら録音したテープ(左)



学生と懇談するクラーク学長(1996年)

経営情報学部 後援会セミナーのお知らせ

多摩大学経営情報学部では後援会員の皆様を対象に、本学のキャリア教育・就職指導や教育内容について相互理解を深めることを目的とした「後援会セミナー」を年2回実施しております。また、ご子息・ご息女の学業や就職、学生生活全般についてゼミ別・個別に大学教職員と会員の皆様が共に懇談できる相談会も実施予定です。

当日のプログラムなど詳細は改めてお知らせいたします。

〈開催日時(いずれも多摩キャンパスで開催)〉

平成25年10月6日(日)「経営情報学部就職セミナー」

平成26年3月2日(日)「経営情報学部教育内容セミナー」

